
*
* 第六章 販売実績システム *
*

基準書 発行年月	フォーマット バージョンNo.
-------------	--------------------

昭和62年 3月	制定 「 1 」
昭和63年 5月	改訂 「 2 」
平成 3年 3月	改訂 「 3 」
平成25年 8月	注事追加 「 3 」

※注事：メーカー／卸店で、原則として遵守すべき運用ルールの明確化や、物流シンボルコードを集合包装用商品コードに変更するなど、現時点での最新の用語に修正した。

I 運用基準

1) データの利用目的

1. 諸契約の実績として活用

期間契約費，販促費，割戻等の算出基礎

2. マーケティングデータとして活用

- ・実績進捗管理 地域別，企業別，店舗別，商品別
- ・商談
- ・販売対策立案
- ・新製品動向把握

2) データ提供サイクル

1. 集計区分

卸店は，メーカーの要望により，下記のいずれかで提供する。

- ①日…個別明細データ
- ②旬…旬間合計データ
- ③月…月間合計データ

2. タイミング

メーカーとしては，より早いタイミングでの提供が望まれるが，下記を目途とする。

- ①日…3日後程度で提供
- ②旬…5日後程度で提供
- ③月…10日後程度で提供

3. 年末年始等の提供スケジュールは，当時者間で打合せる。

3) フォーマットの種類

集計区分により「明細型」と「集約型」を使い分ける。

1. 明細型フォーマット

日処理用。
個別明細を希望するメーカーに対して使用する。

2. 集約型フォーマット

旬・月処理用。
旬又は月でサマリーデータ提供を希望するメーカーに対して使用する。

II 標準フォーマット（明細型）

1) レコードの種類

1. ファイルヘッダーレコード (必須) レコード区分 1

各ファイルの先頭に付けられ、ファイルの送信先等の情報を入れ、該当送信ファイルの属性を明確にする為のレコードである。

※ 詳細は、第三章Ⅲ共通レコードのフォーマット及び使用ガイドを参照。

2. 卸店データ部レコード (必須) レコード区分 2

卸店情報を表わすレコードである。

3. 得意先データ部レコード (必須) レコード区分 3

卸店の得意先（出荷先）情報を表わすレコードである。

4. 商品データ部レコード (必須) レコード区分 4

商品の明細を表わすレコードである。

5. エンドレコード (必須) レコード区分 8

ファイルの終了を表わすレコードで、1ファイルに1件作成する。

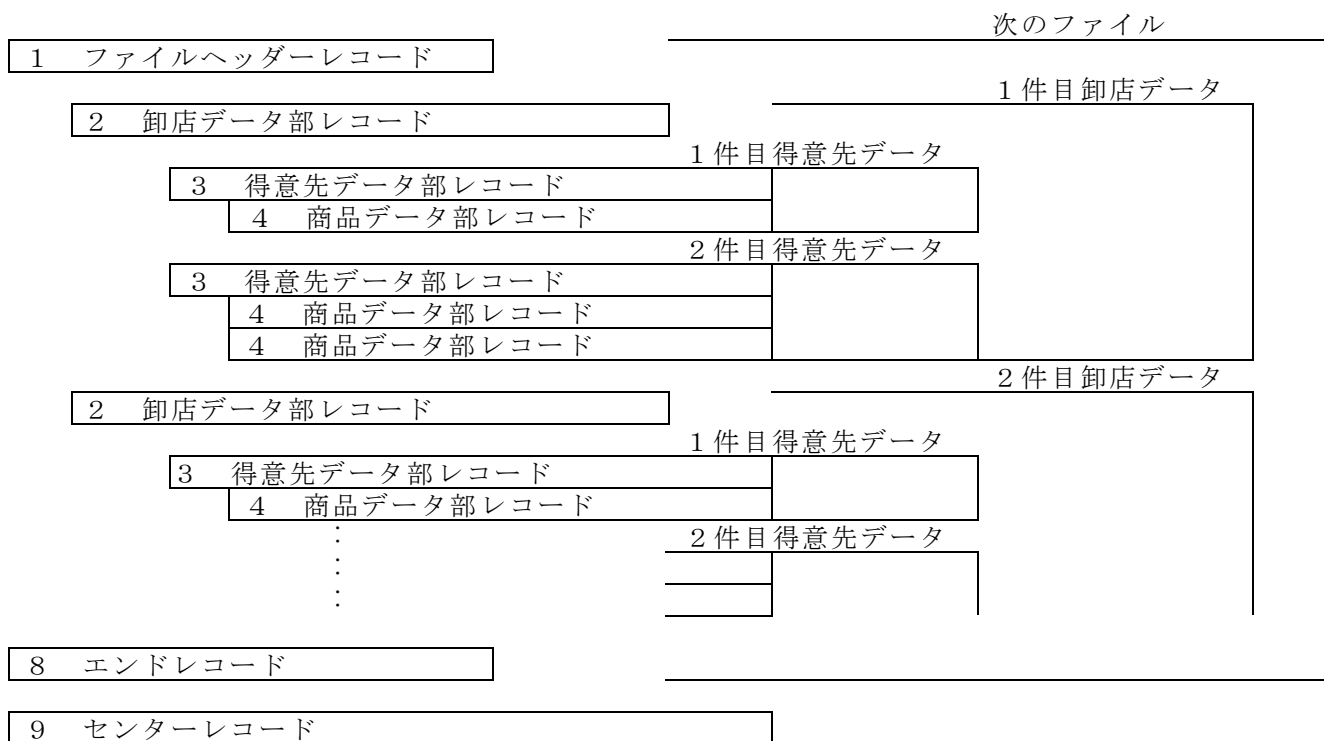
※ 詳細は、第三章Ⅲ共通レコードのフォーマット及び使用ガイドを参照。

6. センターレコード (選択必須) レコード区分 9

中継センターを利用した場合に、センターで造成されるレコードであり、データの受け渡しのチェックに使用される。

※ 詳細は、第三章Ⅲ共通レコードのフォーマット及び使用ガイドを参照。

2) レコード作成イメージ



3) フォーマット及び使用ガイド

1. 共通レコード

ファイルヘッダーレコード, エンドレコード, センターレコードは, 第三章Ⅲを参照。

2. 卸店データ部レコード (明細型)

条件欄 ◎: 必須 ○: 選択必須 △: 任意

No.	Content	条件	Col	Pic- ture	For- mat	Len- gth	Description
1	レコード区分	◎	1	X(01)	CH	1	レコードの種類を表わす「2」
2	データシリアルNo.	◎	2	9(07)	ZD	7	データ通しNo. ファイルヘッダー 単位で1番より付番
3	余白		9	X(07)	CH	7	余白
4	該当月	◎	16	X(04)	CH	4	西暦 (YYMM)
5	卸店コード	◎	20	X(12)	CH	12	卸店組織コード (企業・支店・課) 左詰め
6	卸店・組織名称	◎	32	X(40)	CH	40	卸店企業及び組織名称
7	余白		72	X(57)	CH	57	余白

2-1. レコード区分

卸店データ部レコードであることを認識する。

固定で「2」をセットする。

2-2. データシリアルNo.

ファイルヘッダー単位のデータ通しナンバーを1番よりセットする。

2-3. 余白

2-4. 該当月

後続の実績データが何時のものか該当月をセットする。

2-5. 卸店コード

業界統一取引先コード (8桁) を左詰め, 残り桁はスペースで埋める。

2-6. 卸店・組織名称

卸店の企業名と組織の名称をカナ文字で表示する。

3. 得意先データ部レコード（明細型）

条件欄 ◎：必須 ○：選択必須 △：任意

No.	Content	条件	Col	Pic- ture	For- mat	Len- gth	Description
1	レコード区分	◎	1	X(01)	CH	1	レコードの種類を表わす「3」
2	データシリアルNo.	◎	2	9(07)	ZD	7	データ通しNo. ファイルヘッダー 単位で1番より付番
3	取引先コード区分	◎	9	X(01)	CH	1	△：業界統一コード 1：プライベートコード 2：中継センターにて変換 3：中継センターにて変換不要 9：変換マスター未登録
4	取引先コード	◎	10	X(12)	CH	12	左詰め 残りスペース
5	取引先名	◎	22	X(25)	CH	25	取引先の名称 残りスペース
6	予備	△	47	X(15)	CH	15	取引先名漢字表現の場合、3-5. と合わせて40桁（20文字）で表示
7	取引先住所	◎	62	X(40)	CH	40	卸店で使用している取引先の住 所 カナ文字で左詰め 残りス ペース
8	予備	△	102	X(16)	CH	16	住所漢字表現の場合、3-7. と合 わせて56桁（28文字）で表示
9	余白		118	X(10)	CH	10	余白
10	日本語区分	◎	128	X(01)	CH	1	△：カナ表現 1：漢字表現

3-1. レコード区分

得意先データ部レコードであることを認識する。
固定で「3」をセットする。

3-2. データシリアルNo.

ファイルヘッダー単位のデータ通しナンバーを1番よりセットする。

3-3. 取引先コード区分

項番3-4. 取引先コードに何がセットされているかを識別する。

△：酒類食品全国コードセンターに登録した取引先コード

1：プライベートコードで卸店より提供

2：中継センターにて業界統一コードに変換

3：中継センターでのコード変換が不要であることを指示

9：中継センターの変換マスター未登録の為プライベートコードのままセット

3-4. 取引先コード

取引先コードを左詰めでセットする。

業界統一コード以外を使用する場合には、当事者双方で、事前確認を行う必要がある。

3-5～6. 取引先名

後続商品データ部の実績を上げた取引先等の名称を表示する。

3-7～8. 取引先住所

項番3-5～6. 取引先名で表示した取引先の所在地を表示する。

4. 商品データ部レコード（明細型）

条件欄 ◎：必須 ○：選択必須 △：任意

No.	Content	条件	Col	Pic- ture	For- mat	Len- gth	Description
1	レコード区分	◎	1	X(01)	CH	1	レコードの種類を表わす「4」
2	データシリアルNo.	◎	2	9(07)	ZD	7	データ通しNo. ファイルヘッダー 単位で1番より付番
3	納品日	◎	9	X(06)	CH	6	実際の納品日（YYMMDD）
4	倉出・合計区分	◎	15	X(01)	CH	1	0：倉出 + 直送 1：倉出のみ
5	特売区分	○	16	X(01)	CH	1	0：分類不能 1：定番納品 2：特売納品
l	6 商品コード使用区分	◎	17	X(01)	CH	1	1：プライベートコード 2：JAN+荷姿コード 3：JANコード 4：集合包装用商品コード 5：SDPコード 6：GTIN
h	7 商品コード	◎	18	X(16)	CH	16	標準コードの設定がなければ、プ ライベートコードを使用
be	8 商品名	◎	34	X(26)	CH	26	卸店で使用している名称カナ
eh	9 予備	△	60	X(24)	CH	24	漢字表現の場合、4-8. と合わせ て50桁（25文字）で表示
e	10 ケース当り入数	◎	84	9(04)	ZD	4	ケース当りの個数
e	11 ケース数	◎	88	S9(07)	ZD	7	ケース数の値
e	12 個数	◎	95	S9(07)	ZD	7	個数の値
e	13 販売単価区分	○	102	X(01)	CH	1	1：販売単価の値がケース当り 3：販売単価の値が個当り
e	14 販売単価	○	103	9(7)V2	ZD	9	標準販売単価（少数第3位切捨て）
e	15 伝票番号	○	112	X(08)	CH	8	伝票番号
eh	16 余白		120	X(07)	CH	7	余白
eh	17 消費税区分	○	127	X(01)	CH	1	△：外税 1：内税 2：非課税
	18 日本語区分	◎	128	X(01)	CH	1	△：カナ表現 1：漢字表現

b：直前項目削除
e：先頭桁番号変更
h：長さの変更
l：コードの変更

4-1. レコード区分

商品データ部レコードであることを認識する。
固定で「4」をセットする。

4-2. データシリアルNo.

ファイルヘッダー単位のデータ通しナンバーを1番よりセットする。

4-3. 納品日

商品を実際に納品した日を表示する。

4-4. 倉出・合計区分

実績が倉出しデータのみか、直送データを含むかを識別する。

0：倉出 + 直送

1：倉出 のみ

※ 個々のレコードに対するものではなく、ファイル全体に対するものであり、同一ファイル中は、総て同じコードをセットする。

4-5. 特売区分

定番取引と特売取引をデータ作成しているか否か、区分けしている場合は、どちらのデータであるかを識別するコードを表示する。

0：分類不能

1：定番納品

2：特売納品

4-6. 商品コード使用区分

使用している商品コードの種類を確認する為に表示する。

1：プライベートコード

2：JAN+荷姿コード

3：JANコード

4：集合包装用商品コード

5：SDPコード

6：GTIN

4-7. 商品コード

標準商品コードが設定されている場合は、これを使用する。

未設定の場合は、利用者双方で協議し、プライベートコードを使用する。

4-8. 商品名

商品名をカナ文字26桁で表示する。漢字を使用する場合は、次項目と合わせて25文字で表示する。

4-10. ケース当り入数

ケースの中に入っている商品の入数を表示する。

4-11. ケース数

取引の行われたケース数を表示する。

4-12. 個数

取引の行われた個数を表示する。

ケース数を除く端数の表示なのか、ケース数を含む総個数なのか、利用者双方で事前

に確認しておく必要がある。

4-17. 消費税区分

販売単価の中に、消費税が含まれているか否かを識別するコードを表示する。

△：外税

1：内税

2：非課税

Ⅲ 標準フォーマット（集約型）

1) レコードの種類

1. ファイルヘッダーレコード (必須) レコード区分 1

各ファイルの先頭に付けられ、ファイルの送信先等の情報を入れ、該当送信ファイルの属性を明確にする為のレコードである。

※ 詳細は、第三章Ⅲ共通レコードのフォーマット及び使用ガイドを参照。

2. 卸店データ部レコード (必須) レコード区分 2

卸店情報を表わすレコードである。

3. 得意先データ部レコード (必須) レコード区分 3

卸店の得意先（出荷先）情報を表わすレコードである。

4. 商品データ部レコード (必須) レコード区分 4

商品の明細を表わすレコードである。

5. 商品データオプションレコード (任意) レコード区分 5

商品の明細を表わすレコードである。

6. エンドレコード (必須) レコード区分 8

ファイルの終了を表わすレコードで、1ファイルに1件作成する。

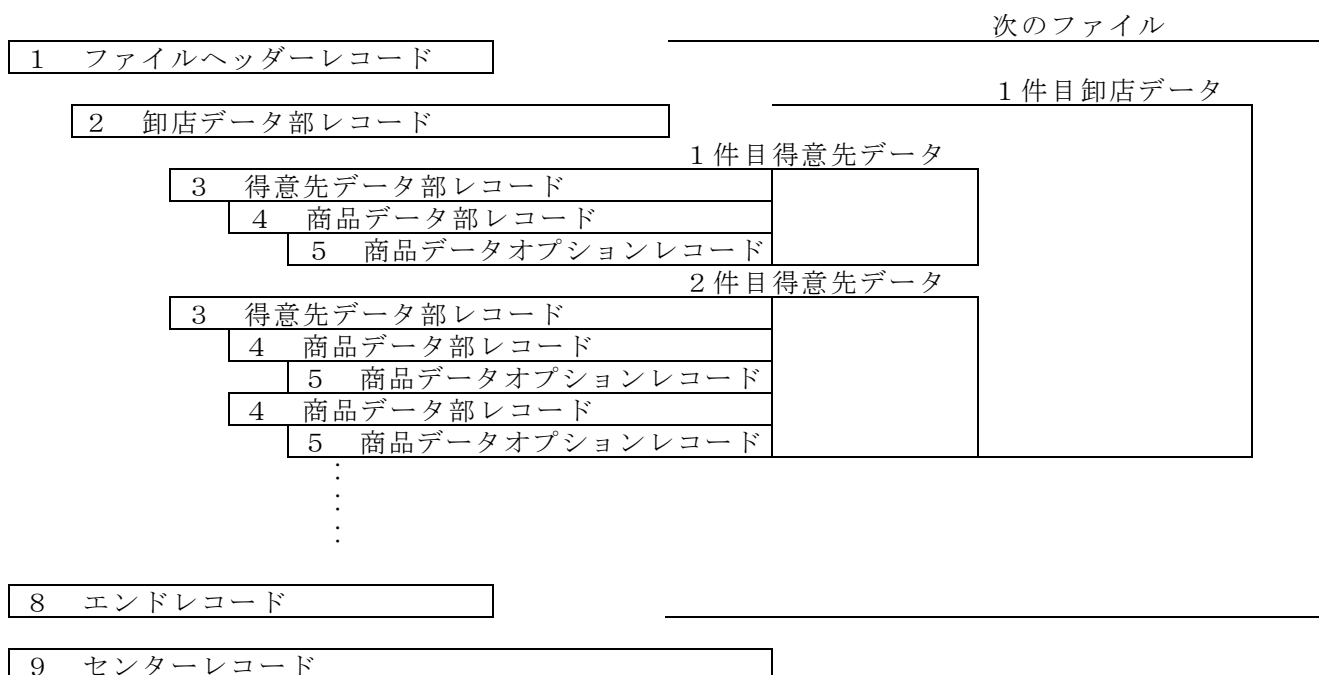
※ 詳細は、第三章Ⅲ共通レコードのフォーマット及び使用ガイドを参照。

7. センターレコード (選択必須) レコード区分 9

中継センターを利用した場合に、センターで造成されるレコードであり、データの受け渡しのチェックに使用される。

※ 詳細は、第三章Ⅲ共通レコードのフォーマット及び使用ガイドを参照。

2) レコード作成イメージ



3) フォーマット及び使用ガイド

1. 共通レコード

ファイルヘッダーレコード、エンドレコード、センターレコードは、第三章Ⅲを参照。

2. 卸店データ部レコード（集約型）

条件欄 ◎：必須 ○：選択必須 △：任意

No.	Content	条件	Col	Pic- ture	For- mat	Len- gth	Description
1	レコード区分	◎	1	X(01)	CH	1	レコードの種類を表わす「2」
2	データシリアルNo.	◎	2	9(07)	ZD	7	データ通しNo. ファイルヘッダー 単位で1番より付番
3	余白		9	X(07)	CH	7	余白
4	該当月	◎	16	X(04)	CH	4	西暦（YYMM）
5	卸店コード	◎	20	X(12)	CH	12	卸店組織コード（企業・支店・課） 左詰め
6	卸店・組織名称	◎	32	X(40)	CH	40	卸店企業及び組織名称
7	倉出・合計区分	◎	72	X(01)	CH	1	0：倉出 + 直送 1：倉出 のみ
8	集計期間	◎	73	X(04)	CH	4	提供データの計上日範囲をFROM （2桁）+TO（2桁）で表示 上旬「0110」中旬「1120」下旬「2131」 （月末は31に固定）
9	余白		77	X(52)	CH	52	余白

2-1. レコード区分

卸店データ部レコードであることを認識する。
固定で「2」をセットする。

2-2. データシリアルNo.

ファイルヘッダー単位のデータ通しナンバーを1番よりセットする。

2-4. 該当月

後続の実績データが何時のものか該当月をセットする。

2-5. 卸店コード

業界統一取引先コード（8桁）を左詰め、残り桁はスペースで埋める。

2-6. 卸店・組織名称

卸店の企業名と組織の名称をカナ文字で表示する。

2-7. 倉出・合計区分

実績が倉出しデータのみか、直送データを含むかを識別する。

0：倉出 + 直送

1：倉出 のみ

2-8. 集計期間

提供データが該当月のどの期間のものであるか表示する。

3. 得意先データ部レコード（集約型）

条件欄 ◎：必須 ○：選択必須 △：任意

No.	Content	条件	Col	Pic- ture	For- mat	Len- gth	Description
1	レコード区分	◎	1	X(01)	CH	1	レコードの種類を表わす「3」
2	データシリアルNo.	◎	2	9(07)	ZD	7	データ通しNo. ファイルヘッダー 単位で1番より付番
3	取引先コード区分	◎	9	X(01)	CH	1	△：業界統一コード 1：プライベートコード 2：中継センターにて変換 3：中継センターにて変換不要 9：変換マスター未登録
4	取引先コード	◎	10	X(12)	CH	12	左詰め 残りスペース
5	取引先名	◎	22	X(25)	CH	25	取引先の名称 残りスペース
6	予備	△	47	X(15)	CH	15	取引先名漢字表現の場合、3-5. と合わせて40桁（20文字）で表示
7	取引先住所	◎	62	X(40)	CH	40	卸店で使用している取引先の住 所 カナ文字で左詰め 残りス ペース
8	予備	△	102	X(16)	CH	16	住所漢字表現の場合、3-7. と合 わせて56桁（28文字）で表示
9	余白		118	X(10)	CH	10	余白
10	日本語区分	◎	128	X(01)	CH	1	△：カナ表現 1：漢字表現

3-1. レコード区分

得意先データ部レコードであることを認識する。
固定で「3」をセットする。

3-2. データシリアルNo.

ファイルヘッダー単位のデータ通しナンバーを1番よりセットする。

3-3. 取引先コード区分

項番3-4. 取引先コードに何がセットされているかを識別する。

△：酒類食品全国コードセンターに登録した取引先コード

1：プライベートコードで卸店より提供

2：中継センターにて業界統一コードに変換

3：中継センターでのコード変換が不要であることを指示

9：中継センターの変換マスター未登録の為プライベートコードのままセット

3-4. 取引先コード

取引先コードを左詰めでセットする。

業界統一コード以外を使用する場合には、当事者双方で、事前確認を行う必要がある。

3-5～6. 取引先名

後続商品データ部の実績を上げた取引先等の名称を表示する。

3-7～8. 取引先住所

項番3-5～6. 取引先名で表示した取引先の所在地を表示する。

4. 商品データ部レコード（集約型）

条件欄 ◎：必須 ○：選択必須 △：任意

No.	Content	条件	Col	Pic- ture	For- mat	Len- gth	Description	
1	レコード区分	◎	1	X(01)	CH	1	レコードの種類を表わす「4」	
2	データシリアルNo.	◎	2	9(07)	ZD	7	データ通しNo. ファイルヘッダー 単位で1番より付番	
l	3	◎	9	X(01)	CH	1	1：プライベートコード 2：JAN+荷姿コード 3：JANコード 4：集合包装用商品コード 5：SDPコード 6：GTIN	
h	明							
be	4	◎	10	X(16)	CH	16		標準コードの設定がなければ、プ ライベートコードを使用
e	(1)							
eh	5	◎	26	9(04)	ZD	4		ケース当りの個数
l	6	◎	30	S9(07)	ZD	7		ケース数の値
h	7	◎	37	S9(07)	ZD	7		個数の値
be	8	○	44	X(05)	CH	5		余白
eh	9	◎	49	X(01)	CH	1	上記4-3～8. の繰り返し使用	
l	明							
h	10	◎	50	X(16)	CH	16		
be	細							
e	11	◎	66	9(04)	ZD	4		
eh	12	◎	70	S9(07)	ZD	7		
l	13	◎	77	S9(07)	ZD	7	上記4-3～8. の繰り返し使用	
h	明							
be	14	○	84	X(05)	CH	5		
e	(2)							
eh	15	◎	89	X(01)	CH	1		
l	16	◎	90	X(16)	CH	16		
h	細							
be	17	◎	106	9(04)	ZD	4		
e	(3)							
eh	18	◎	110	S9(07)	ZD	7		
l	19	◎	117	S9(07)	ZD	7		
h	明							
be	20	○	124	X(05)	CH	5		

b：直前項目削除
e：先頭桁番号変更
h：長さの変更
l：コードの変更

4-1. レコード区分

商品データ部レコードであることを認識する。
固定で「4」をセットする。

4-2. データシリアルNo.

ファイルヘッダー単位のデータ通しナンバーを1番よりセットする。

4-3. 商品コード使用区分 1

使用している商品コードの種類を確認する為に表示する。

- 1 : プライベートコード
- 2 : J A N + 荷姿コード
- 3 : J A Nコード
- 4 : 集合包装用商品コード
- 5 : S D Pコード
- 6 : G T I N

4-4. 商品コード 1

標準商品コードが設定されている場合は、これを使用する。
未設定の場合は、利用者双方で協議し、プライベートコードを使用する。

4-5. 入数 1

ケースの中に入っている商品の数を表示する。

4-6. ケース数 1

取引の行われたケース数を表示する。

4-7. 個数 1

取引の行われた個数を表示する。

ケース数を除く端数の表示なのか、ケース数を含む総個数なのか、利用者双方で事前に確認しておく必要がある。

4-8. 予備 1

スペース

4-9～14. 明細データ(2)

項番4-3～8. の繰り返し 1

4-15～20. 明細データ(3)

項番4-3～8. の繰り返し 2

5. 商品データオプションレコード（集約型）

条件欄 ◎：必須 ○：選択必須 △：任意

No.	Content	条件	Col	Pic- ture	For- mat	Len- gth	Description
1	レコード区分	◎	1	X(01)	CH	1	レコードの種類を表わす「5」
2	データシリアルNo.	◎	2	9(07)	ZD	7	データ通しNo. ファイルヘッダー 単位で1番より付番
3	商品名 1	◎	9	X(26)	CH	26	卸店で使用している名称をカナ で表示
4	予備 1	△	35	X(12)	CH	12	商品名漢字表現の為の予備欄
5	商品名 2	◎	47	X(26)	CH	26	上記5-3～4. の繰り返し使用
6	予備 2	△	73	X(12)	CH	12	
7	商品名 3	◎	85	X(26)	CH	26	上記5-3～4. の繰り返し使用
8	予備 3	△	111	X(12)	CH	12	
9	余白	△	123	X(05)	CH	5	スペース
10	日本語区分	◎	128	X(01)	CH	1	商品名を漢字で表現するか否か △：カナ表現 1：漢字表現

商品データオプションレコード（集約型）は、商品部データレコードの項番4-4., 4-10., 4-16. の商品コードが標準コード以外の場合に、作成する。

商品データオプションレコード（集約型）の商品名 1, 商品名 2, 商品名 3は、商品部データレコードの商品コード 1, 商品コード 2, 商品コード 3と夫々対応をとって表示する。